

20080

CE 配属前後での時間外経皮的冠動脈形成術時の血管内エコー装置の使用頻度の検討

¹大阪府済生会泉尾病院、²大阪府済生会泉尾病院

大塚 智久¹、高澤 誠¹、秋田 雄三²、豊 航太郎²、山本 聖²、吉長 正博²、唐川 正洋²、上山 翔大¹

【はじめに】2015年4月まで、当院の心臓カテーテル室ではCEが配属されておらず、血管内エコー装置やデバイス出しを他職種が行っていた。2015年4月よりCE2名が配属され、夜間や休祝日の時間外緊急心臓カテーテル検査を担当するようになり、IABPや血管内エコー装置の操作をすることで他職種の負担を軽減させた。今回、CEが担当するようになり、血管内エコー装置の使用頻度にどのような変化が現れたかの考察を行った。【方法】調査期間をCEが配属される前(2014/1/1～2015/3/31 期間A)と、CEが配属された(2015/4/1～2016/6/20 期間B)で評価を行った。CE配属前後での時間外緊急冠動脈形成術時に、血管内エコー装置の使用率を比較検討した。【結果】期間Aでは時間外経皮的冠動脈形成術件数13件で血管内エコー装置使用率は15.4%であった。期間Bでは時間外の経皮的冠動脈形成術件数17件で血管内エコー装置使用率が82.4%であった。以上のように、使用率の著名な上昇がみられた。【結語】CEが時間外緊急冠動脈形成術を担当するようになった事で、血管内エコー装置をより多くの症例で使用できるようになった。これにより、より詳細な情報を得られ、至適なデバイス選択や手技選択が可能となったと思われる。